

平成 30 年度活動方針と総括

ソーシャルプラネット大分

平成 31 年 4 月 27 日

当年度活動方針

①助成金事業に応募 (収入基盤強化)

- ★企画を全員で検討し、応募案毎の責任者を決めて企画書作成に全員協力する
(事前調査から関連部門との折衝、企画書作成、プレゼン) (経費予算措置)
- ・今年度は、複数の委託事業を受託し活動の幅を拡大する
- ・第 33 回国民文化祭おおいた 2018 開催に際し開催される様々なイベントへの参加
(柔軟な発想で企画を立案し展開する)

△(ろうきん助成事業応募・採択)1 件のみ

②うつくし隊活動の継続 (着実な実績作り)

- ★昨年実施した住吉川清掃のフォロー ◎ (実施済み)
- ★別大マラソン前日の国道清掃。 ◎ (実施済み)

③当会の知名度向上 (広報活動充実/他団体との交流/関連官庁)

- ・ブログでの毎月定期情報発信 (全員でブログ原稿を書く) ✕ (未実施)
- ・今後も積極的に NPO 関連会合への参加し他団体との連携を深める △ (5 回参加)

④会員数を拡大し、幅広い活動を展開

- ・活動規模を広げるために、実働できる会員を増やす
- ・事業ごとに協力頂く他団体や人材の確保をする (他団体との連携スタイル)

◎佐藤さん入会、木下さん勧誘・入会予定

総括

新規助成事業は獲得できたが、新分野へのチャレンジができなかった。

一方でこれまで継続してきた地域貢献活動は着実にできており、ブログ広報の定期的な更新をしておりこの点は評価できると考える。

又、小規模ながら明朗な会計処理と決算ができており組織体としての基盤ができていていると考える。

課題としては、他団体との交流促進と会場内の円滑なコミュニケーションがあげられる。ほぼ毎月例会を開催し、その議事録を翌日には事務局より配信しているものの当日欠席者へ細かな内容の伝達等が不十分で意思疎通が上手くいかないことも出てきた。又、受け取った議事録やブログを読んだの指摘やコメント件数が少なく、情報流通が一方通行になっている状態も懸念される。

次年度は NPO 本来の姿である全員参加型の活動に向けた工夫が求められる